

準学士課程及び専攻科課程における教育方針、養成すべき人材像及び教育目標

	準学士課程	専攻科課程
教育方針	<ul style="list-style-type: none"> ① 豊かな心と優れた感受性を持ち、学生として自主的な責任ある行動と規律正しい生活ができる人間に育てる。 ② 一般科目と専門科目を適切に配分した5年間の一貫教育を行い、幅広い知識を持つ人間に育てる。 ③ 実技教育を重視し、理論に裏打ちされた創造力と豊かな国際性を身につけた、実践的能力ある人間に育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 準学士課程及び専攻科の7年間教育により、事象・現象を、複眼的視野をもって総合的に捉え、目標とする“もの”を具体的にデザインし、創造できる人間に育てる。
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会人として生活していく上で必要な豊かな教養と倫理を備えた人材を養成する。 ② 専門科目を理解し、専門に関わる学問を発展させるための基礎となる数学、物理学、化学、情報処理等の確たる学力を備えた人材を養成する。 ③ 国内のみならず、国際社会において自分の考えを表現できるよう十分な国語及び外国語（特に英語）に関する学力を備えた人材を養成する。 ④ 専門に関わる確たる学力を備えた人材を養成する。 ⑤ 課題探求能力を有し、設定した課題に向かって果敢に挑戦できる実践的人材を養成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ “もの”を新たに創造するために、必要な情報収集・解析・企画・立案及び設計等に関する総合的能力を有する開発型技術者・研究者を養成する。
教育目標	<p><教養教育></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 社会規範及び人間倫理に基づいて判断し、行動できる人材の養成を実現する。 ② 専門の学問を理解するために十分な数学、物理学、化学等の学力を習得させる。 ③ 文章を読解でき、事象を文章で表現でき、自分の考えを他人に言葉で伝えることができるに十分な国語力を習得させる。 ④ 国際社会においてコミュニケーションがとれるようになるための基礎英語力を習得させる。 ⑤ 情報リテラシーを習得させる。 <p>専門教育<専門教育></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実験・実践能力を養成する。 ② 各種データの収集・解析及び現象の解析を可能とする情報処理能力を養成する。 ③ 高度な専門科目の学習に対応するため、応用数学、応用物理学等、より進んだ専門基礎科目を履修させる。 ④ 各学科専門教育においては各学科で定めた基礎コア科目の内容を重点的に教授する。 ⑤ 卒業研究を通じて学生自ら新しい課題に挑戦していく資質を養成する。 ⑥ 卒業研究の成果を校内外で発表させ、プレゼンテーション力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 応用的及び先端的専門科目を理解することを可能にする高度な数学、物理学、化学等の基礎学力を養成する。 ② 外国語でのコミュニケーションを可能とする英語力（TOEIC 400点以上を目標）を習得させる。 ③ 情報技術を駆使できる能力を養成する。 ④ 機械工学、電気工学、制御情報工学、物質工学、および経営情報工学のそれぞれの学問（応用的及び先端的専門科目）に関するさらに高度な能力を養成する。その水準としては、大学院工学研究科修士課程1年次のレベルを目指す。 ⑤ ④に示したそれぞれの工学の事象・現象を総合的に捉え、複眼的視野の下で目標とする“もの”を具体的にデザインし、これを創造するためのシステムを構築できる能力を養成する。